

## 障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

### 1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

### 2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

#### (1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別									
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡				
生活介護	70	77	0	5	GH	アパート等					0	0	2	1
施設入所支援	70	68	0	5	1	0	0	0	2	1	1	22,910	89.8%	63
元 帳	生活介護	70	79	0	2	0	0	0	1	1	0	18,378	97.2%	77
	施設入所支援	70	70	0	2	0	0	0	1	1	0	23,851	93.1%	68

#### (2) 障害支援区分

##### ①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	4	14	18	37
女性	0	0	0	0	4	17	14	35
計	0	0	0	1	8	31	32	72

##### ②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	3	14	15	33
女性	0	0	0	0	3	13	14	30
計	0	0	0	1	6	27	29	63

### 3 事業の実施状況

#### (1) 権利擁護と意思決定支援

権利擁護については事例を交えながら権利について考えたり、障がい者虐待やそれに繋がる感情コントロール等を含めた職員のメンタルヘルスの勉強会も行った。そして意思決定の軽視も虐待に通ずることから意思決定支援等の研修も園内で行った。

成年後見制度については今年度新たに利用した人はいない（現在9名が利用）。

意思決定支援を考慮した個別支援計画の作成は昨年度以上に定着しつつある。意思表示がうまく出来ない方については、日常生活における表情や感情行動に関する記録等の情報に加え、生活史についてご家族や関係機関等から情報を得たり、コミュニケーションサンプルの手法や行動観察シートを用いて本人意思の推定に努めている。

#### (2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への支援については、毎月2回行動障がい部会によるスーパーバイズを開催し、スーパーバイザーからの助言を参考にワークシステムの点検、見直しをおこない、また個別の支援困難事例や自立課題については、構造化、応用行動分析、課題分析等の手法を活用して取り組んだ。

またオンラインにて強度行動障がい支援者養成研修にも基礎4名、実践3名、専門1名と参加し専門性を高めていった。

- イ 身体障がいやフレイル状態の方への支援は理学療法士が中心となって行っている。機能訓練、生活リハビリ、温熱療法等については随時見直しをしながら順調に進んでいる。また骨密度測定器で測定したところ、40歳以上の66%の方が骨密度が非常に低いことがわかった。そのため骨密度改善のため干し椎茸の粉末（ビタミンD2を多く含む）をほとんどのご利用者が摂取している。日中活動の中に適度な日光浴の時間も設けながら、今後も定期的検査を行っていく。
- ウ 精神障がいのある方への支援は、今年度については新型コロナウイルスの影響で医療センターの臨床心理士の派遣を受けることは出来なかったが、園内研修や精神科医への相談等で補うことが出来た。
- エ その他の支援  
 アート活動においては上半期は新型コロナウイルスの影響により、毎年夏に開催していた「いろどり展」は中止とした。下半期は書道の講師に來園していただいて文化芸術活動を行い、例年どおり「あいサポート・アートとっとり展」への出展や中電ふれあいホールでの「いろどり展（2/25～3/1）」を開催できた。  
 また、音楽療法、各種アクティビティをとおして心肺機能や関節可動域の維持向上や生活の中の楽しみづくりに繋げている。
- (3) 地域移行の推進  
 グループホーム移行の希望者が1名あり、見学・体験を経て12月に移行した。
- (4) 地域交流・貢献の推進  
 9月6日勝谷川・浜村川清掃  
 11月25日道路ボランティア（清掃活動）  
 その他の活動については、新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となった。
- (5) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進  
 ア OJT 上半期は「リスクマネジメント」「障がい特性」「意思決定支援をふまえた個別支援計画作成」「虐待防止・権利擁護」「メンタルヘルス～ラインケア～」「ガウンテクニック」「食中毒予防」を実施。  
 下半期は「メンタルヘルス～セルフケア～」「てんかん」「感染症予防」「ハラスメント」「虐待と介護事故の検証」等を実施するなど、専門性の向上とメンタルヘルスの推進を目指して実施した。
- イ Off-JT 上半期は新型コロナウイルスの影響から研修自体ほぼ開催されることはなかったが、下半期に入りオンラインでの研修が開催されるようになった。全てに参加とはいかないが「虐待防止研修」「サビ管更新研修」「認知症を発症した知的障害者への支援」「強度行動障がい支援者養成研修」等など、専門性に直結するような研修を優先に内容を吟味しながら可能な限り参加していった。
- ウ SDS 社会福祉士（1名）、介護福祉士（1名）受験。
- エ チューター制度 新規採用職員を対象に実施。先輩職員から助言を受け、定期的に振り返りを行うことで必要な業務を早めに覚える事が出来た。また業務に対する悩み等の相談もしやすく、職場への定着にも効果がある。
- (6) 経営改善・基盤の確立  
 ア 2（利用者）：1（支援・看護職員）配置を確保するための計数管理に努めた。
- イ 今後も慢性的に支援員の欠員状態が見込まれる。介護が必要な方も増えたことから、看護力や介護設備が整った高齢者施設等への移管を検討していき、定員70→60名を目指す。現員63名。
- ウ 目標稼働率は下記のとおりとし、収支差額目標を61,000千円として取り組んだ。  
 ・目標稼働率：生活介護96.8% 施設入所支援92.8%  
 ・実績稼働率：生活介護93.8% 施設入所支援89.8%  
 全館エアコン取替工事が完了。今後は相当な電気代増が予想されるため、適正な管理が必要となる。  
 また、入院を減らす良策として、知的障がいのある方は自身にフレイルの自覚がなく、転倒骨折や喉詰めになりやすいため、機能訓練に力を入れ利用者の機能維持を図ることが大切である。また行動障がいのある方についても、それに起因する事故等を予知しながら、安全かつ自立した生活への支援を行っている。

## 4 実習、ボランティアの受入状況

## (1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学幼児教育学科	9月	3人	30人
鳥取社会福祉専門学校	11月	2人	10人
計		5人	40人

## (2) ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団（繕い物）、職員OB（草刈り） [延べ28人]

## 5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 3名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	9	59	9	136
日中一時支援事業	0	0	0	0